

令和3年度 第3回学校運営協議会 11月4日(木) 9:30~12:00

出席者 A委員：企業関係者 B委員：公民館代表
C委員：福祉関係者1 D委員：同窓会代表
E委員：福祉関係者2 F委員：行政関係者
G委員：福祉関係者3 H委員：PTA代表

本校校長

オブザーバー参加：本校副校長2名、事務長、本校総括教務主任 計13名

欠席 I委員(福祉関係者4)

1. 授業参観：光陵祭(学習発表会)校内発表会を見学
2. 開会
3. 校長挨拶
4. 日程説明・諸連絡(*委員の変更について連絡)
5. 報告
(1)学校運営進捗状況について：スライドにより説明
6. 熟議 議事進行 会長A委員
(1)地域と協働した学習等のあり方等について
7. 委員の皆様から：学校に対するご提言、ご要望、本日の感想等
8. 諸連絡 次年度の委員の選出について
今後の運営協議会の日程について(令和4年2月28日(月)9:30~12:00)
9. 閉会

6についての意見交換

*事前に出された意見・質疑内容は要約してあります。熟議の中で発言・議論があったものに限定し記載しております。

【地域と協働した学習のあり方に関して】

○新規のアイデア「・・・のような学習活動が考えられるのではないか」

①立根地区の団体との交流について

B委員

高齢者の「はつらつクラブ」では手芸や踊りなどをしており、活動するメンバーの中には様々な技術を持つ人もいます。このような人たちを場合により講師として招くことも考えられるのでは。

多くの行事が紹介されたが、行事の精選も必要なのではないか。

②9月22日の中学部のピーマン収穫は、生徒にどんな影響(プラス面・マイナス面)が考えられるのか

本校総括教務

中学部は育てる体験学習をしていた中で貴重な体験となった。時間に余裕があり、生徒それぞれが自分のペースで作業することができた。さらに、収穫を通して量や重さなど数学的な学習をすることができた。また、現場で作業する緊張感を感じることもできたのではないかと。難しい部分としては、実施する前の日程に余裕がないこともあり、生徒に事前の説明など見通しを持たせることが難しい。

B委員

作業服姿で一生懸命作業している姿が印象的。最後の挨拶もとても感動しました。

④地域貢献活動の多様化：学校としてどの部分でどの程度やっていくのか、どう位置づけるのか、本当に求められる活動は何か。

B委員

運動会の権現舞指導や立根川美化活動などでかかわっているが、授業の中でどう位置づけていくのかはこちらも考えるところである。

高等部副校長

陸前高田の野外活動センターや高田松原の野球場の草刈りを実習で行い高く評価された。同時に高等部では地元での貢献活動を模索している部分もある。草刈りを依頼する電話をいただいたこともあったが、高等部の教育計画もあり個人的な依頼に臨機応変に対応することは難しく地域貢献をどのように進めていくかについては検討中である。

H委員

自分の子どもが祖母の畑の草刈りを行いやりがいを感じたようであったが、やはり学校がありいつもできるわけではなく、シルバー人材センターなどを頼んでいる。例えば、シルバー人材センターとの連携などは考えられないか。子どもたちにとってもチャンスになるのではないか。草刈りのスキルを身につけて、大きな所だけではなく地域の小さな部分にかかわることで地域に支援学校を知ってもらうことにもつながるのではないか。

本校校長

地域も高齢者が増え高齢者のみの世帯も増えている。本校の就労を希望する生徒の現状を考えると介護職を希望する生徒も増えてきている。地域のニーズにもとづき、本校の作業学習の中で買い物学習の延長のような形で地域のお年寄りの買い物の補助などできないかと考えていたところである。実際に行う場合、どの機関と連携し紹介等をしてもらえるかを考えた場合、今お話に出たシルバー人材センターとの連携は検討する必要がある。一方で、児童生徒数が減少しておりピーク時に比べると半減している状況があり、この状況の中でどこまでどの範囲までできるかを考えなければならぬ実情がある。結果として、まずは公の部分、皆さんが使う場所から取り組んでいこうと言うことで今年度のような形になった。実習期間のような特別な形ではなく通常の作業学習の中で行うということを考えれば先ほど話にあげられたシルバー人材センターとの連携も考えられるかもしれない。

B委員

立根町助け合い協議会という組織があり、高齢者のひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯を対象に買い物代行を行っている。買い物が困難だという場合、要望があれば、買い物の内容を聞き、お金を預かり、買い物後に精算するという仕組みがある。個人情報等の課題はあるが本校生徒と一緒にやることも検討できるかもしれない。やってみたいということがあれば地域のこのような組織におろして検討してもいいのではないか。

D委員

代行する買い物の内容を米やしょうゆなど重い物に限定してはどうか。あまり幅広いものを代行するとなるとどちらも負担が大きくなるのではないか。やはり、学校に直接頼むというのは頼む方も頼みづらいし生徒の保護者の立場としてもどうなのかと思う部分がある。やはり間に入る組織などがあって欲しい。

⑩地域の協働団体として様々な団体との協働を考えられないか。

(民生児童委員、保護司会、更生保護女性会、市グランドゴルフ協会、労組等)

E委員

民生児童委員・保護司会・更生保護女性会等は社会的な貢献も目的としており、大洋学園の子どもたちとの交流もあり、子どもたちに対する社会貢献も目的とした団体である。このような団体とのクリーン作戦なども考えられるのではないか。グランドゴルフ協会については、年々競技人口が増えている。参加者は高齢ながらパワフルな方が多く、協働して活動できるのではないか。また、学校は行事などの年間計画を作るが、授業の一環として地域の方々と交流するのであればスポーツとしてグランドゴルフなどは取り組めるのではないか。

(学校より:どのような場所で行うのか?)グラウンドでもできる。

また、会社ごとの労組も社会貢献ということで子どもたちとの活動をととても考えている部分がある。会長や事務局を通してコンタクトできる。

⑪企業「S」との連携について

I委員より事前に

こちらの社長さんが福祉に非常に前向きであり、さらなる事業展開を目指しているため連携していくべきではないか。学校でできる新たな取り組みとして、むいたほやの殻を再利用する工夫(粉碎して肥料等)を授業等でできないか。SDGsにつながる展開として学校で考えられないか。

学校からの発信をもっと強化すべきではないか。校報やホームページなどで発信をしていかなければ地域でも知ってもらえない。

⑭「障害者雇用の考え方の刷新」

I委員より事前に

従来の「なんとか雇ってもらえないでしょうか」という形ではなく、共に連携しながら相互に意味のある進路指導・障害者雇用の考え方を模索するべきではないか。「障害者就職説明会」もコロナ禍の影響であまり行っていないが、積極的に行って障害者雇用について発信していくべきではないか。

○改革・見直し「・・・の活動は廃止、内容の見直しが必要であろう」

④「お手伝い日誌」(各家庭が協力して、毎週、各家庭のお手伝い目標と結果を学校に報告する)について

本校総括教務

長期休業の際の目標の中に、チェック項目の中に必ず「お手伝い」は入っている。最初にどんなことをやるか決めて、やったかやらないかを書かせることはしているが日誌という形、日々の取り組みとしてはできていない。

⑤交流籍による活動について。交流する生徒たちはどのように受け止めているのか、悪い記憶を思い出したりからかいの対象になったりすることはないのか。

副校長

希望しない場合は無理強いはいらない。行きたいと思えるような交流になるよう努力をしていきたい。

○その他(学校に対するご意見等を自由に)

①より専門的な教職員の配置・育成

副校長

外部講師として、現在、限られた時間ではあるが、作業療法士に来校してもらい身体の動かし方などの指導を受けている。

【その他】

○新規のアイデア「・・・のような学習活動が考えられるのではないか」

⑧「合同研修会の必要性」について

I委員より事前に

虐待に対する認識が学校は少し薄いのではないか。機関により虐待の認識基準が異なり、学校も虐待の基準を他の機関とつきあわせていく必要があるのではないか。

○その他

③障害のある子が地域でどう見られているのか、理解されているのか、子どもたちのために何をすべきか。

H委員

障害がない子の家庭が障害がある子をどのように考えているか本音を聞いてみたい思いがある。その上で家庭の中で障害があるということ話し合っ欲しい。子どもたちは現実の中で生きていかなければならない。そのためには公的な支援はもちろん必要だが、地域の中で知ってもらい、「こんなことしてもらってありがとうね。」と言われ言葉をかわすというようなことが始まりとなるのではないか。

D委員

兄弟や家庭の中ですら、障害をきちんと理解してない部分もある。

B委員

今の子どもたちは障害がある子どもたちと直接接したり生活したりする機会が少ない。そういう機会があれば、慣れて受け入れることもできるようになる可能性があり、そういう機会を設けられればいいのではないか。

7. 委員の皆様から：学校に対するご提言、ご要望、本日の感想等

A委員

生徒たちが楽しそうに活動している姿を見ることができ心が和やかになった。熟議で出た様々な問題に対して、企業としてどう対応できるのかを持ち帰り考えて次の協議会に提案できたらと考えている。

B委員

良い時間でした。様々な外部団体との会議があるため、気仙光陵支援学校とこれらの団体の協働についても持ち帰りたい。

C委員

デイサービスに来ている子どもたちの学校での姿を見ることができてとても楽しかった。熟議の中で出た地域との協働について、個人ニーズのボランティアを、学校がダイレクトに受けて行くのは難しい。間に組織が入る仕組みを作っていく必要がある。

D委員

子どもたちの活動を見ることができてよかった。

E委員

小学部の発表を見て先生方の指導に感心した。地域との連携については、どのような地域貢献が良いのか様々な意見があることがわかった。みんなが使う公共の部分に関わっていくのが良いのではと思うが今後の検討に期待したい。

F委員

光陵祭の発表の見学は良かった。熟議の中でシルバー人材センターの話が出てきたが、現在高齢化で仕事を十分に受けられない状況がある。特に女性が少なく草むしりなどを受けづらい状況にある。

G委員

福祉の世界に関わってくる中で、やはり地域との協働ということについて様々な課題があった。今回様々な意見を聞き、とても参考になった。

H委員

生徒の発表をみて「めんこいなあ」と感じました。子どもが地域の中で生きていくためにいろいろ考えていただいてありがたいと思います。難しいことではあるが、そこにはチャンスがあるのではないかと感じた。難しいからあきらめるのではなく、子どもたちのためにいろいろ工夫していけるのではないかと感じた。

本校校長

いろいろなご意見をいただき、学校として考えていかなければならないこと、やっていかなければならないことがあると感じております。働き方改革もからめて、これまでやってきことは本当に必要なのかを再検討し、社会情勢なども考慮しながら、児童生徒の成長に本当に必要なものをご意見を参考に考えていきたいと思っております。